ヘルスケア＆マネジメント　医療・介護・福祉

せがわ住機、介護事業を拡大

介護機器レンタルやリフォーム一貫対応

介護用品のレンタルやリフォームなどを手掛けるせがわ住機（本社名古屋市中川区太平通3の23の1、仙波太朗社長、電話052・353・1861）は、介護事業を拡大している。水道工事店からスタートしたが、高齢化社会の進展を見据え、介護事業に参入し、事業構造を大きく転換。地域密着で迅速、きめ細かな営業や工事、フォロー体制を構築し、顧客の信頼を獲得してきた。介護事業は現在、売上高全体の7割を占める主力事業に成長した。（山田悠）

仙波太朗社長

創業は1977年。水道工事店からの修理、住まいに関わるリフォームと、事業の幅を広げてきた。転機は2000年に始まった介護保険制度だ。同社が介護事業への関心を高めるなか、ある展示会で介護事業を紹介するパナソニックのブースを訪れ、介護のフランチャイズビジネスに共感。高齢化社会で需要が高まると判断し、加盟を決断した。01年に「パナソニックエイジフリーショップみなと」をオープンし、介護事業に参入した。

ここでは、パナソニックの介護事業のコンセプトであるバリアフリー、ストレスフリー、ケアフリーの三つのフリーを実現する商品やサービスを提供し、快適な暮らしを提案している。介護に必要なベッドや車いすをレンタルしたり、階段やトイレの手すり工事、階段昇降機などを使った介護リフォームを手掛けている。本社一階にはショールームを開設し、実際に介護用品に触れたり、体験することで、自身に合った商品を選べる。

商品に触れたり、実際に体験することで、自身にあった商品を選べる

高齢者の安心・安全な暮らしに貢献

自身に合った商品、設備を提案

本社1階のショールームにはさまざまな介護用品が並んでいる

介護リフォームは、ちょっとした工事でも、高齢者の生活を改善できる。例えば、照明。スイッチが小さくて、押しにくい場合、大きいスイッチに変更したり、リモコンで操作できる照明に交換する。これによって、明るい室内環境に変わり、快適に過ごしやすくなる。

仙波社長は「一人住まいの高齢者の場合、一日の最初の会話が、当社の担当者という場合もある。定期的に訪問し、高齢者の孤立を防ぐほか、住環境を整備して生活の意欲が高まることに貢献したい」と話す。今後、認知症の人が、快適に暮らせるリフォームなども強化していく方針。

同社の介護事業は近年、着実に拡大している。高齢者の増加による介護用品の需要拡大に加え、長年の地域密着で獲得した顧客基盤、加盟するパナソニックのブランド力の相乗効果が寄与している。

今後も、地域の高齢者らの需要にきめ細かく、迅速に対応することで、地域に不可欠な事業所として存在感を高めていく。